

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年8月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3072100484
法人名	社会福祉法人 同仁会
事業所名	グループホームカルフル・ド・ルポ印南
所在地	和歌山県日高郡山口150 (電話) 0738-42-8080

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成20年8月11日	評価確定日	平成20年8月 日

## 【情報提供票より】(20年7月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 9.1人

### (2) 建物概要

建物構造	平屋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 240,000円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

### (4) 利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	60 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	国保 日高総合病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは自然に囲まれたところに立地し、玄関から外に出れば、利用者が座れる椅子やベンチがあり、またお茶を飲むことができるテーブルが設けられている。周辺の見晴らしもよく、利用者は座っておしゃべりができ、また畑もあり野菜を植えている。地域交流の一環として、休耕田を借りうけ、利用者が見守るなか職員が田植えを行うなど、収穫を楽しみにしている。利用者の手芸、書道などの趣味活動も活発であり職員は支援を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題のうち、利用者の暮らしぶり等の家族への報告については、家族会便りやカルフル便りで報告がなされている。また家族等の意見等が出やすくする工夫については、苦情受付箱が設置されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員に朝の申し送りのときに話し、管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1度開催しており、ホームの行事や外部評価の改善課題を議題とし、出された意見はサービスの向上に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関の入ったところに苦情受付箱を置き、職員も家族に意見等があれば聞くようにしているが、意見等は出されていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、ホーム周辺に散歩に来る人と挨拶を交わしたり、地域との付き合いの一つとして休耕田を借りて稲作体験をするなど、地域との連携に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、ゆったりくらしたい、私らしく過ごしたい、満足したい、という事業所独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内の職員の目につきやすいところに掲げており、職員は頭の中に記憶し、ケアを理念をもとに行うように努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、周辺の遊歩道で出会う人々と挨拶を交わしたりして、地域の人々との交流に努めている。また地域との付き合いの一環として、町内の休耕田を借り、稲作を職員が行って利用者が見守り、その収穫を皆で食べることにしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員に毎朝の申し送りのときに話し、管理者がまとめた。前回の外部評価の改善課題は運営推進会議でも議題とし、改善に向けた取り組みがなされている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、民生委員長、町健康福祉課長、地域包括支援センター職員、ホーム管理者が構成員となり2か月に一度開催し、ホームの行事予定、外部評価の改善課題への取り組み等を議題としており、出された意見をサービス向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは、運営推進会議以外では、十分といえる関わりをもっていない。	○	今後、町の担当者とはホームの運営などについて疑義があれば質疑・相談を行うなど、共にサービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態について、家族会広報やカルフル便りで報告している。また急を要する場合は電話で伝えている。なお金銭管理は毎月家族に収支明細書と領収書の写しを送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関を入ったところに苦情受付箱を置き説明を書いたり、職員は家族等の意見等があれば聞くようにしているが、昨年9月以降は苦情が出ていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職以外には異動はない。新しい職員が入ってきた場合は、先ず利用者に紹介し、職員が個々の利用者積極的に話しかけて徐々に親しんでもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行う認知症、救急方法、ターミナルケア、地震対策等をテーマとした研修に参加している。また資格取得の研修会にも参加している。外部での研修への参加は職員が希望することができる。新任の職員が入ってきたときは、先輩職員が付きケアの方法や掃除、入浴等の業務を習い、夜勤は最初先輩職員と2人で行うようにしている		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会の研修会に参加しており、ネットワークがある。また印南町の地域ケア会議に参加し、介護関係団体とともに、困難事例へのサービス提供や介護保険料の状況等の研修を受けるなど、交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してホームを利用するために、本人や家族に事前に見学してもらい、入居してから外出や外泊の機会をつくり、利用者と家族の関わりを保ちながら、徐々にホームに慣れてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごしながら、調理の味付けや調理方法、花の植え方や肥料のやり方などを教えてもらうことがある。またカラオケや戸外へ出てベンチで話したり、散歩したりして、支えあう関係をつくっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と一緒に生活することにより、利用者の日常の会話や普段の行動を観察し、暮らしの希望、意向等を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が利用者・家族の希望や職員の意見を聞いて、生活を支援する方針や短期・長期の目標を設定して介護計画を作成し、介護支援専門員がこれを確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直すとともに、利用者の心身に急な変化が見られたときは、本人・家族等と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の特別養護老人ホームの看護師と24時間連携が可能な体制をとっている。また利用者が医療機関を受診するときは容態の説明を要するので職員が付き添い支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望に沿って、診療を要するときは本人のかかりつけ医やホームの協力医療機関に職員が付き添って通院している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときや終末期について、利用者家族、かかりつけ医等と話し合い方針を共有し、看取りに関する同意書も作成している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを傷つけることがないよう配慮している。また個人情報も漏れることがないよう注意しており、記録は職員室の引き出しの中に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々の業務の中でも、利用者個々のペースや希望に沿って、カラオケや散歩、買い物、犬との散歩などを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みは入居当初に聞いており、また職員は何気ない会話の中から好みを聞き取ってメニューの中に取り入れている。調理については、味付け、喉ごし、細かく刻むことなどの工夫している。なお利用者には、できる範囲でジャガイモやたまねぎの皮むきなどを手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は特に決めずに、利用者の希望に応じて入浴してもらっており、朝入浴する利用者もいる。また、日により入浴を拒否する利用者もいるが、職員は工夫してそれぞれの入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴を活かし、花や野菜づくり、洗濯物のたたみ、食材の準備などの役割をもってもらったり、手芸、書道、カラオケや散歩などの楽しみごとや気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、散歩や買い物など日常的な外出を支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の動きを見守っていて、日中は玄関に鍵をかけていない。居室にも鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近くにある所轄消防署の指導により、年2回避難・誘導訓練を行っている。ホームは比較的高いところに位置し、地域の家屋とはかなりの距離がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事の摂取量を記録しており、水分は食事の時や午前・午後に摂っている。多彩なメニューを心がけて調理しているが、大まかな栄養バランスについて専門的な観点からのチェックは受けていない。	○	カロリーの過不足や栄養の偏りが起こらないよう、栄養バランスについて、専門的なアドバイスを受けることを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には行事の写真やちぎり絵、書道の作品等を掲げたり、ガラス戸越しに季節の花や野菜を眺めることができる。また綺麗な造花や日本人形を飾っている。テレビの音や明るさ、室温も適当と感じられる。なお1つのユニットに犬を飼っており、利用者に親しまれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には綺麗な造花を飾ったり、書道の作品や写真を掲げたりして、利用者にとって居心地よく過ごせるよう配慮している。		